

岡山地方における性病の疫学的研究

第 2 報

昭和30年並びに31年における性病発生状況について

岡山大学医学部皮膚科泌尿器科教室（主任：大村教授）

岡 山 保 健 所（所長：伊達博士）

山 村 英 太 郎

末 沢 泰 子

〔昭和32年10月23日受稿〕

昭和23年、性病予防法が施行され、その一端として性病患者の届出制が行われるようになった。山村は先に昭和26年～29年に亘る4年間に、岡山保健所管内に発生し、届出られた性病患者を統計的に観察、報告したのであるが、この度その引続きとして昭和30年並びに31年の2ヶ年間に届出られた性病患者につき、前回と同様なる角度より観察した。

統計的観察

1) 年度別の統計について：各年統計綱目

として、性、年令、職業別に分け、病型として性病を梅毒、淋疾、軟性下疳、第四性病、更に梅毒については、初期、二期、早期潜伏（感染後4年未満）、後期潜伏（感染後4年以上）、晩期、先天性とし、淋疾は急性、慢性とした。この病型は厚生省指定の分類によつたもので、第1表、第2表に記載した。

岡山地方においても戦後、性病の蔓延を来し、昭和22年を最高として、昭和23年頃より減少し始めたことは、藤原氏等による岡大皮膚科泌尿器科教室における統計の認める所で

第 1 表 昭 和 3 0 年

病 型	統計綱目	性 別		年 令								職 業								
		男	女	1	11	21	31	41	51	61	61	農	商	工	交	公	会	接	無	其不 他明
				10	20	30	40	50	60	70										
梅 毒	初 期	3	3 0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	
	第 2 期	5	4 1	0	1	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0	
	早期潜伏	11	3 8	0	2	8	1	0	0	0	2	1	1	0	0	4	2	1	0	
	後期潜伏	28	16 12	0	0	8	11	4	3	2	1	2	2	1	0	6	0	14	2	
	晩 期	5	3 2	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3	1	
	先 天 性	6	1 5	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0	
計	58	30 28	0	8	21	15	6	4	4	4	4	4	1	0	15	3	24	3		
淋 疾	急 性	229	201 28	0	48	146	27	7	1	0	3	14	15	5	22	133	20	13	4	
	慢 性	89	75 14	0	13	59	12	2	3	0	1	3	5	3	3	66	0	8	0	
	計	318	276 42	0	61	205	39	9	4	0	4	17	20	8	25	199	20	21	4	
軟 性 下 疳	89	80 9	0	30	55	3	1	0	0	1	3	3	11	3	53	10	2	3		
第 四 性 病	0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
総 計	465	386 79	0	99	281	57	16	8	4	9	24	27	20	28	267	33	47	10		

第2表 昭和31年

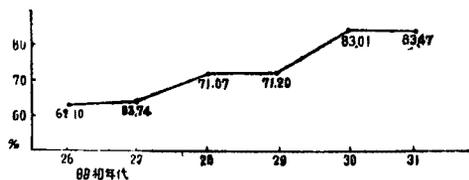
病 型	統計綱目	性別		年 令							職 業												
		男	女	1	11	21	31	41	51	61	農	商	工	交	公	会	接	無	其 他明				
				10	20	30	40	50	60	70													
梅 毒	初期	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第2期	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	早期潜伏	4	0	4	0	0	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	1
	後期潜伏	33	22	11	0	0	5	10	9	7	2	1	4	3	0	3	4	0	10	8	0	0	0
	晩期	8	7	1	0	0	0	1	1	2	4	0	0	2	0	0	1	0	2	3	0	0	0
	先天性	6	3	3	0	3	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0
計	54	34	20	0	3	12	12	11	9	7	3	4	8	0	3	5	2	14	15	0	0	0	15
淋 疾	急性	174	161	13	0	19	129	17	5	4	0	1	11	9	2	11	130	0	8	2	0	0	2
	慢性	62	46	16	0	3	36	10	2	1	0	0	3	3	0	2	46	0	5	3	0	0	3
	計	236	207	29	0	22	165	37	7	5	0	1	14	12	2	13	176	0	13	5	0	0	5
軟性下疳	61	52	9	0	18	41	2	0	0	0	0	1	3	2	1	0	39	8	4	3	0	0	3
第四性病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	351	293	58	0	43	218	51	18	14	7	5	21	22	3	16	220	10	31	23	0	0	0	23

ある。一方岡山保健所管内の性病患者届出数は昭和24年2,865名、25年1,610名、26年1,227名、27年1,084名、28年695名、29年455名にて、昭和30年、31年には第1表、2表に示す如く、465名と351名である。

2) 発生頻度について：各年度の性病患者総数、男子患者総数、男子患者総数の性病患者総数に対する%、梅毒、淋疾、軟性下疳、第四性病の各総数並びにそれらの性病患者総数に対する%、更に梅毒においては初期梅毒患者数、淋疾においては急性淋疾患者数のおのおの患者総数に対する%を観察した。これ等は第3表に記載した。

次に昭和26年以來のものを参照し2、3の観察を試みて図示した。

第1図



第1図においては各年男子患者総数の性病患者総数に対する%を図示したもので、男子

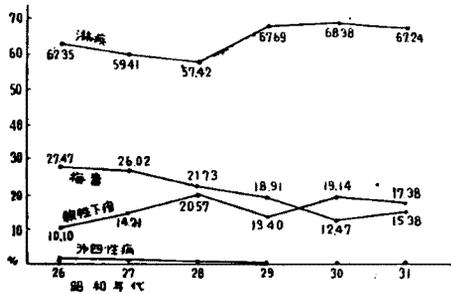
第3表

統計綱目	年 度			
	昭和30年	昭和31年	計及び%	
性病患者総数	465	351	816	
男子患者総数	386	293	679	
男子患者総数の性病患者総数に対する%	83.01%	83.47%	83.21%	
梅毒	患者総数	58	54	112
	性病患者総数に対する%	12.47%	15.38%	13.73%
	初期梅毒患者数	3	2	5
淋疾	急性淋疾患者数	229	174	403
	急性淋疾患者数の患者総数に対する%	72.01%	73.73%	72.74%
軟性下疳	患者総数	89	61	150
	性病患者総数に対する%	19.14%	17.38%	18.38%
第四性病	患者総数	0	0	0

患者は年々増加し、反対に女子患者は減少していることを物語るものであり、性病の家庭侵入は減少しつつあると云える。

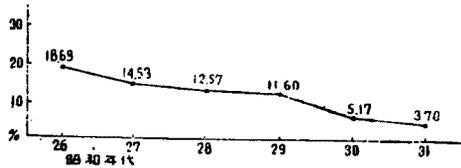
第2図は各年の各性病間の割合を图示したもので、梅毒は数年来、下降を示すも、淋疾、軟性下疳は減少の傾向なく、上昇の気味がみられ、第四性病は2〜3年来、影を潜めていることが窺われる。

第 2 図



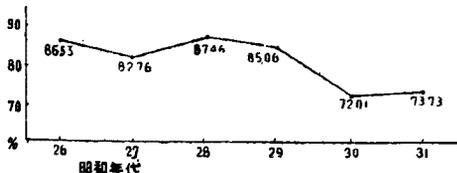
第3図は初期梅毒患者の梅毒患者総数に対する%を图示したもので、初期梅毒患者は年々、減少していること即ち梅毒感染者の減少を示すものである。

第 3 図



第4図には急性淋病患者の淋病患者総数に対する%を示すもので、急性淋病患者の減少しつつあることが表われており、優秀なる抗生物質の影響がうかがわれる。

第 4 図



3) 年齢について：2ケ年の患者を年齢別に分類すると第4表のようになる。20才代が圧倒的に多く、61.15%で過半数を占めている。次で10才代、30才代の順となっており、10才以下には1例の患者も出ていない。

第 4 表

年度別	年齢別						
	1~10才	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70
昭和30年	0	99	281	57	16	8	4
昭和31年	0	43	218	51	18	14	7
計	0	142	499	108	34	22	11
%	0	17.40	61.15	13.24	4.17	2.70	1.34

4) 職業について：職業においては、当時の経済状態に左右され、第5表に示す通り、2ケ年を通じ第1位を占めるものは会社員の59.69%にて過半数を占め、次いで、無、工、商、公、接、交、農の順となっており。こゝで「工」は工員、労務者、職人を、「交」は鉄道員、運転手、車掌、船員を、「接」は接客婦、女給、街娼を示すものである。

第 5 表

年度別	職業別								
	農	商	工	交	公	会	接	無	其他不明
昭和30年	9	24	27	20	28	267	33	47	10
昭和31年	5	21	22	3	16	220	10	31	23
計	14	45	49	23	44	487	43	78	33
%	1.72	5.51	6.00	2.82	5.39	59.68	5.27	9.56	4.05

5) 感染源について：感染源を業態者、妻、夫、遊客、その他に5区分し、かつ性別に分類したものが第6表である。男子の感染源としては、業態者よりものが殆んどを占め、昭和30年85.49%、31年87.37%であり、女子の感染源としては特殊婦人群における遊客よりの感染並びに一般婦人の夫よりの感染共に可成の%に存在し、性病の家庭侵入がなお可成存在することが窺われる。

6) 月別の発生について：月別患者発生数を届出年月日により区分し、第7表に示した。2ケ年を通じ、10月が最も多く、次いで7月、1月、9月、3月の順となっており、患者発生状態の月別による特別な関係はみられなかつた。

第 6 表

年次	昭和30年		昭和31年		計	
	男	女	男	女	男	女
性						
感染源						
業 態 者	330	/	256	/	586	/
	85.49%	/	87.37%	/	86.30%	/
妻	0	/	1	/	1	/
	0	/	0.34%	/	0.15%	/
夫	/	24	/	20	/	44
	/	30.38%	/	34.48%	/	32.12%
遊 客	/	38	/	19	/	57
	/	48.10%	/	32.76%	/	41.60%
其 他	56	17	36	19	92	36
	14.51%	21.52%	12.29%	32.76%	13.55%	26.28%

総 括

- 1) 昭和30年 465 名, 昭和31年 351 名の性病患者在岡山保健所に届出られ, これを統計的に観察した。
- 2) 男子の患者数は相対的に年々増加の傾向がみられる。
- 3) 初期梅毒患者即ち梅毒感染者は近年, 極度に減少し, 一方感染の危険の大きい急性

文

- 1) 藤原外: 性病, 35, 130, 昭25.

第 7 表

月 別	年次別		計
	昭和30年	昭和31年	
1	44	37	81
2	41	25	66
3	40	37	77
4	33	25	58
5	33	18	51
6	43	34	77
7	34	48	82
8	40	23	63
9	41	36	77
10	44	41	85
11	46	15	61
12	26	12	38
計	465	351	816

淋病患者はなお, 多数存在する。

- 4) 2ケ年を通じ, 20才代の青年が60%以上を占めている。
- 5) 職業においてはその当時の社会状態殊に経済状態が大いに関係すると思われる。
- 6) 男子患者の感染源は80%以上業態婦によるもので, 性症の家庭侵入も可成り存在する。
- 7) 2ケ年の月別患者発生状態は1月, 7月, 10月に多くなっている。

献

- 2) 山村: 岡山医学会誌, 69, 379, 昭32.

Epidemiologic Studies on Venereal Diseases in Okayama District.

Report II.

Statistical Observations on Venereal Diseases
in 1955 and 1956.

By

Eitaro Yamamura,

Yasuko Suezawa.

Department of Dermatology and Urology, Okayama University Medical School, Okayama.

(Director: Prof. J. Omura)

Okayama Health Centre

(Director: Dr. T. Date)

Consecutively from the first report, observations were made on venereal diseases, syphilis, gonorrhoea, ulcus molle and lymphogranulomatosis venereum at Okayama Health Centre in 1955 and 1956.

Syphilis gradually decrease since few years, whereas any decline could be found on gonorrhoea and ulcus molle, and rather more acute gonorrhoea have an increasing tendency.
